

環境振動シンポジウム検討WG 第2回議事録（案）

A. 日 時 2018年10月19日 金曜日 17:30～19:00

B. 場 所 建築学会 307会議室

C. 出席者 増田主査 他9名

D. 提出資料（提出委員名）

No.2-1 環境振動シンポジウム検討WG 第1回議事録案

No.2-2 環境振動シンポジウム実施計画書

No.2-3 環境振動シンポジウム会告

No.2-4 環境工学メルマガ案

E. 議事内容

1. 議事録の確認 承認された。
2. 2018年度環境振動シンポジウム議題について（資料 No.2-2～4）

資料 2-2～2-4 を踏まえて、今年度環境振動シンポジウムの内容について議論した。

議論内容

講演内容について説明があった。

- ・ 1. 主旨説明 評価と設計、計測について、プログラム構成を説明する
- ・ 2.1 設計指針概要 マトリックスと設計フローを説明して、今回の内容につなげるポイントを解説する。
- ・ 2.2 自然振動源（風など）に対する設計例 風+マトリックスの説明
風のマトリックス 1年 2年 5年 10年と設定した理由が欲しい。
5年はISO からきている。
⇒マトリックスについての詳細な説明で後ろにつなげる。
- ・ 2.3 内部振動源（歩行など）に対する設計例
風と整合をとるようにマトリックスを修正
⇒マトリックス作成の根拠、マトリックスと評価規準を利用して、どのように合意形成をするのかということについて、その方法の例を示す。
- ・ 2.4 外部振動源（道路交通など）に対する設計例
地盤とか周辺状況の影響が大きい
物件ごとに、マトリックスを作成して、施主との合意形成につなげる
⇒設計例をつくる際には、単純なパターンと詳細なパターンを作成する一つのモデルでいくつかの計算例を示す
入力を決めるときに、計測を行う
距離減衰は難しいので、敷地で計測を行う
- ・ 2.5 建物性能確認のための計測例
建物の振動と部材の振動を計測する、どこを計測して、どのように分析して、

何を出すのが重要、マスに触れるのか？

⇒7階の建物に6個のセンサで計った例、得られたデータをどういう風に分析するか？ 入力と出力の関係、伝達関数を表す、固有振動数と減衰

・3 居住性能評価のための計測例

測定分析小委員会で作成中の測定分析資料の紹介と評価規準を用いた測定分析の例を示す

3. 2018年度環境振動シンポジウム原稿〆切について

12月17日(月)

12月25日(火) 運営委員会主査の〆切

以上